

Jean-Luc Godard films



LES CARABINIERIERS



UN FILM DE **JEAN-LUC GODARD**
avec

MARINO MASÉ ALBERT JUROSS GENEVIÈVE GALÉA CATHERINE RIBERO

ADAPTÉ POUR L'ÉCRAN PAR **ROBERTO ROSSELINI** et **JEAN GRUAULT**

DIRECTEUR DE LA PHOTOGRAPHIE DE **RAOUL COUTARD**

1963 / France-Italy / 80mins / B&W / Standard / Distribué par N.S.W.

ジャン＝リュック・ゴダール 監督作品

カラビニエ

J.L.G.films N.S.W. vol.3 LES CARABINIERI



Les Carabiniers

監督・脚本：ジャン＝リュック・ゴダール

脚本：ロベルト・ロッセリーニ/ジャン・グリュフォー 原作：ベニャミノー・ヨッポロ

撮影：ラウル・クタル 製作：ジョルジュ・ド・ボールガール/カルロ・ボンティ

出演：アルベール・ジュロス/マリーノ・マゼ/カトリヌ・リペロ/ジュヌヴィエーブ・ガレア

1963年/フランス＝イタリア/80分/白黒/スタンダード/配給：N.S.W.



これはひとつの寓話である— ジャン＝リュック・ゴダール

これはいつでもどこでもない話。カラビニエ（王様のおつかい）がふたり、王様からの手紙をもってユリシーズとミケランジェロ兄弟のところへやってきた。チョウヘイ？センソウはよくないのではないかとためらうふたりだが、世界中の宝物が何でも手に入るというカラビニエの言葉を聞いて、母クレオパトラと妹ヴィーナスは大喜び。二人の尻を蹴とばすように、モノポリーゲームよろしくセンソウへと送りだす・・・

「はなればなれ」の前年、「軽蔑」の撮影準備中の63年、ゴダールがシュールで不思議な寓話を撮りあげた。カラビニエのファッションは、ロシアの軍帽にイタリア鉄道の車掌コート、旧ユーゴスラビアの長靴・・・と無国籍なミラタリミックス。無知で愚鈍な二人の兄弟のセンソウは、まるで「～ごっこ」のようだ。これは「アンナ・カレーナのゴダール」とも「ジガ・ヴェルトフ集団のゴダール」とも異質な、しなやかでアナーキーな「裏ゴダール」ともいべきひとつの寓話である。

カラビニエ 手紙を届けに来た
ミケランジェロ 誰の手紙だ？
カラビニエ 王様の手紙だ
ビーナス 王様？ふざけないでよ
ユリシーズ チョウヘイ？何のことだ？
クレオパトラ 王様が手紙を！すごいわ
ユリシーズ 王様は俺を友達と思って頼み事を？
カラビニエ 折り入っての頼みごとがある
ミケランジェロ センソウなんてつまらん
カラビニエ 面白いぞ。まず外国を見て精神が豊かになる。
その上何でも手に入れられる。凱旋門 映画館 空港
アルファロメオ ゾウ 自由の女神 ウクレレ 街
冷蔵庫 すばらしい風景 それに服を脱ぐ女・・・
クレオパトラ すてき！私はピロードのドレス、マックス・ファクターの口紅！
ビーナス 早くセンソウしといで！
クレオパトラ 行かなきゃバカよ
ビーナス ビキニもお願い！ビキニよ！

カラビニエ、あれこれ

嶺川貴子（ミュージシャン）

ゴダールのおとぎ話・・・

これはたしかにゴダールらしいおとぎ話。やっぱり引用とかがたくさん出てきて、ひとつひとつ引っ掛かっていると、私なんかは頭がコンガラがってきてしまっ、あれ？ってなってしまうけど、じつはとんでもなく単純なお話で、もしかしたら、子供たちに観せたらすぐ理解してくれるんじゃないかと思う。子供なら、ムズカシイところは省略しちゃおうでしょう？

ユリシーズとミケランジェロ（！）の兄弟が戦利品を、小さなトランクから絵葉書で次々と出していくシーンは、子供から大人まで楽しめる珍しいゴダールの名場面だと思った。

あと、「カラビニエ」はいつものゴダール作品とはちょっと違うている。わざとなのかどうかは判らないけれど、有名な女優とか俳優が一人も出ていない。それが余計なおとぎ話の味を出しているというのかな（教育テレビっぽい？）。

されどゴダール。ちゃんと魅力的な女性は登場する。ヴィーナス役のジュヌヴィエーブ・ガレアが、とても可愛い。農民の娘という役だからかもしれないが、小悪魔的などこか素朴で、ハイジのように干し草も似合いそう。彼女の洋服も、白いニッ

トとチェックのスカートにふくらはぎの辺でもたついているブーツがなんともよい感じ、観ているうちにすっかり真似してしまいたくなる。とりあえずは、彼女のように少し前髪を切ってみようか。なんと彼女はエマニエル・ベアールのお母さんだという。言われてみれば目がそっくりだ。

そしてもう一人。私が気になったのが、第4地区解放委員会の兵士の女の子。キャスケットを被り、男装していたが、じつは長い髪の美少女で、マヤコフスキーの「すばらしい寓話」を唱えながら殺されてしまう。途中ほんの少ししが登場しないのだけど、同性の私がハッとする凜々しきで、ゴダール作品のなかでもかなり印象に残る少女。

そう。この「カラビニエ」は、たぶんゴダール作品のSIDE2であって、7インチレコードの裏面にあるような、けっこう重要な曲のような存在なのではないのかな。

そして、北風までもが写されたうつつくしいモノクロの画面とジュヌヴィエーブ・ガレアの可愛らしいファッションに、私たちは寒くなった日のことを頭の中に想像する。冬は終わったばかりなのに。

ホワイティ梅田泉の広場M-10右とがる東へ5分
扇町ミュージアムスクエア
☎06・6361・0088 www.oms.gr.jp

9/22(sat)-10/5(fri)
lateshow(8:40pm start) ※10/3(水)休映

* 予告編ビデオ付き前売鑑賞券（税込¥2200）近日発売！（限定）

* PAT defectiveデザインによるN.S.W.オリジナル「カラビニエ」ボーダーT-SHIRTS（税込¥3000）他発売中！